

<b>H003</b>	<b>京都で学ぶ人文学（つながりを問い直す コミュニティとコミュニケーション）</b>		
英名科目名	Introduction to Humanities		
大学名	京都大学		
連絡先	文学研究科教務掛 TEL:075-753-2809 FAX:075-753-2719		
担当教員	京都大学文学研究科 教授 伊藤和行 京都産業大学 非常勤講師 長岡徹郎 仁愛大学 非常勤講師 許燕華 京都大学 非常勤講師 山本めゆ 京都大学 非常勤講師 白木正俊 京都大学 非常勤講師 鈴木真奈 神戸女学院大学 非常勤講師 別役透 京都大学 非常勤講師 伊藤遼		
開講期間	2019年09月26日(木)～2020年01月23日(木) 5講時 16時20分～17時50分(毎週木曜日)  休講2回 2019/11/21(木)、2020/01/16(木)  特記事項：プラザ科目学年暦上、2019年12月26日(木)は授業期間外、2020年01月23日(木)は試験期間ですが、授業を実施しますのでご注意ください。		
開講形態	後期・秋学期	開講曜日・講時	木曜日 5講時
単位数	2	履修年次	1-4回生
会場	キャンパスプラザ京都		
授業定員	30		
単位互換生定員		京カレッジ生定員	0
試験・評価方法	平常点60点+レポート40点(ただし、2/3以上の出席がない場合は評価の対象としない)		
超過時の選考方法			
受講料			
別途負担費用			
その他特記事項	授業外学習(予習・復習)等  授業業時に、各担当者から、課題が提示されることがあります。その指示にしたがってください。		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
授業の概要・目的			
開講期間：後期5講時 16時20分～17時50分(毎週木曜日) 講義場所：キャンパスプラザ京都			
<p>本授業は、京都大学で学んできた新進気鋭の若手研究者が各自の研究内容に即してリレー形式で講義を行うものである。</p> <p>現代は社会的分断が進行し、個人が孤立を深めているといわれるが、その一方で自然災害の被災地などでは全国から集まったボランティアが大きな役割を果たしている。また、インターネットやSNSの普及は、従来なら出会わなかったかもしれない人・モノ・情報との出会いを可能にしたが、ときにはそれが他者に対する不寛容や排外主義的暴力を後押ししている。私たちはかつてよりもいっそう複雑な「つながり」を生きている</p> <p>そこで本授業では、社会学、歴史学、心理学、哲学などの観点から「コミュニティ」と「コミュニケーション」について広く学ぶことによって、複雑に絡み合った「つながり」の綾を解きほぐすことを試みる。社会学では排除と包摂にかかわる多様な実践から、歴史学では私たちの生活する街の歴史的由来から、哲学や心理学では意識伝達の基礎となる「言葉」や「意味」の働きから、「つながり」について分析解明していく。このように異なる学問分野から「コミュニティ」と「コミュニケーション」を理解する方法を知ることによって、時代に流されない柔軟な態度をもって改めて「つながり」を問い直すことができるだろう。</p> <p>さらに、各回の授業では学生による質疑応答やグループディスカッ</p>			

ションなどアクティブ・ラーニングを活用することで、学んだ知識を自らの問題関心と結びつけながら主体的に考察する力を養うことも目指す。

#### 到達目標

- ・より広い視野と深い洞察力を持って、現実の諸問題に対する解決策を模索する思考力を養う。
- ・学問的な知識や主体的な学びの方法を身に付けると同時に、実際の課題に積極的に取り組む「生きる力」を涵養する。

#### 講義スケジュール

- [1]イントロダクション(伊藤和行)
- [2]1.1マイノリティとマジョリティ(1)(許)
- [3]1.2マイノリティとマジョリティ(2)
- [4]2.1南アフリカ:「移民」を隔離した国(山本)
- [5]2.2紛争後の社会をいかに修復するか
- [6]3.1コミュニケーションが作り出した歴史認識を問い直す～身近な歴史上の人物を素材に～(白木)
- [7]3.2コミュニティ間における目的と手段の倒錯～京都河原町通の建設をめぐる～
- [8]4.1科学と疑似科学の狭間で(1)血液型性格判断・賛成派を検討する(鈴木)
- [9]4.2科学と疑似科学の狭間で(2)血液型性格判断・反対派を検討する
- [10]5.1他者とつながる動物心理学(1)(別役)
- [11]5.2他者とつながる動物心理学(2)
- [12]6.1未知なるコミュニティとしての哲学者たち(伊藤遼)
- [13]6.2コミュニケーションについて哲学的に考える
- [14]7.1レポート指導(長岡)
- [15]7.2レポート発表

教科書	授業中に指示する
-----	----------

参考書	授業中に紹介する
-----	----------